

「医療介護専用SNSを使った多職種連携」

洲本市・たかたクリニック 高田 裕（医師）

当クリニックでは、以前より医療介護福祉連携にグループウェアであるサイボウズLIVEを使用している。2019年4月よりサイボウズLIVEが終了するため、医療介護専用SNSであるMedical Care Station（MCS）に移行中である。

今回、MCSを使用した多職種連携について考察する。

1. SNS（Social Networking Service）とは

- ・人と人とのつながりを促進・サポートする「コミュニティー肩の会員制サービス」
- ・LINEやFacebookなどと同じだがデータの拡散はない。
- ・スマホ、パソコン、タブレットなどを使用し、OSに依存しない。
- ・データはクラウドサーバ上にある。

2. 多職種連携にMedical Care Station（MCS）を使用した理由

- ・無料である。
- ・実績がある。
- ・操作が容易。
- ・スマホ世代にうってつけ。Bring Your Own Device（BYOD）
- ・後に機能の拡張が可能。
- ・セキュリティがしっかりしている。

3. 操作方法

- ・患者リスト
- ・グループ
- ・つながり

4. MCS利用で

- ・ファックスや電話がほとんどなくなる
- ・圧倒的に増える情報量
- ・患者毎に自動的に情報が分類整理される →状態の変化がわかりやすい
- ・チームの一体感が強まる